

質問者



植田 喜晴 議員

問

共存・共栄を  
どうつくるのか

町は、大型店の出店に対し、今ある中心市街地活性化基本計画を見直し、共存・共栄が図れ、中心市街地を壊さないまちづくりを町民に示す責任がある。

国道や県道の渋滞への対応、特に浜・宗意原交差点周辺や施設周辺の町道の混雑や安全確保への対応は。

浸水対策で雨水を地下タンクに一時貯留するところがあるが、降雨量の設定など企業任せでなく町側も参加すること。

教育や風紀上、農作物への影響などで営業時間の規制が必要。

企業と町が出席する住民説明会の開催と、企業の撤退時には事前の協議を可能にする協議機関の設置が必要と考える。

以上の点で見解を伺います。

答

中心市街地活性化  
計画で対応  
答弁 中矢企画財政課長

中心市街地活性化基本計画は旧市街地を対象とした計画で、大型商業施設との連係により対応できます。

地元対策としては、地元商店の出店を優先し、地場産品の販売コーナーの設置や朝市の開催等を考えています。

交通渋滞への対応は、大規模小売店舗立地法に基づき関係機関と協議し検討します。

浜・宗意原交差点周辺の改良は県にこれまで以上に強く要望します。周辺町道は幹線道路の利用を客

に周知させ、必要に応じて交通誘導員を配置し、周辺住民の要望を聞きながら交通混雑に対応

します。閉店時間は大規模小売店舗立地法では規制が外され

ます。生活環境保持に最善を尽くす考えですので、規制は考えていません。夜間照明の農作物への影響は照明灯の配置、角度、照度で配慮します。

住民説明会は、大規模小売店舗立地法の範囲で行い、撤退時の事前協議機関の設置は考えていません。

問

水道事業  
第6次拡張計画について

事業の中に水源地の3プロック化がある。それは水源地を3プロックに集約し、プロック間で「リスクの分散」を図り、水源地の独立性と相互融通性を持ち合わせた態勢を

答

安心でおいしい水を提供  
答弁 篠崎水道課長

つくとある。水源地間のリスクの分散や独立性と相互融通性を図るには、水源地間で配水管を接続（環状化）すれば実現できる。5億4千万円もの多額の費用をかけ実施する必要はないと思う。

当町の水源は地下水を利用しているが、浄水装置の設置は緊急を要する状況なのか。また、膜ろ過以外の処理方式の説明を求めます。

第6次拡張事業は安心でおいしい水を提供する事業です。近年の水質低下に対処するため塩素減菌方式から膜ろ過方式に、また地震で被災した場合でも必要な水を確保できる耐震性配水施設をつくります。これをそれぞれ9水源地につくるより、3カ所に集約する方が経済的・効率的となります。

全ての水源地の原水から大腸菌が検出され水質は悪化しており、早急に耐塩素性原生動物への対処が必要です。浄水方式は、膜ろ過以外に緩速ろ過と急速ろ過方式がありま

問

歯周病検診の実施を

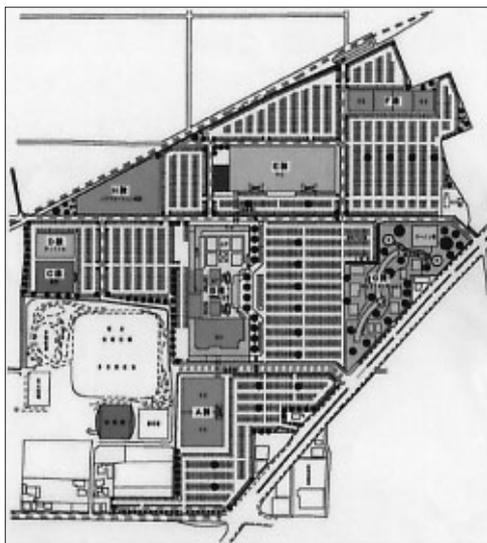
歯周病は痛みが少ないため治療しない人が多く、高齢者が自分の歯を失う原因になっています。早期発見と治療の促進に検診の実施を求めます。

答

前向きに検討する  
答弁 升田保健センター所長

健康行政を総合的に推進するため、現在松前町健康増進計画を策定中です。計画策定の中で歯周病検診については前向きに検討します。

このほかに、「伊方原発ブルサームル計画の中止の表明を」「介護保険制度の見直し」について質問しました。



大型商業施設設計画図